

(ファクシミリ施行)
農 技 第 1610号
平成23年12月15日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第6号を発表しましたのでご活用下さい。

平成23年度病害虫発生予察予報 第6号

向こう3か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
冬(春)キャベツ	菌核病	平年並	平年並
	アブラムシ類	やや少	やや少
タマネギ	べと病	やや多	やや多
	白色疫病	やや少	少
	細菌性腐敗	やや多	多(苗床)
冬(春)レタス	菌核病	やや多	やや多
	灰色かび病	平年並	少
	ビッグベイン病	やや多	やや多
	腐敗病	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや少	やや少
	ハモグリバエ類	やや多	平年並
イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	やや少	少

近畿地方 3か月予報

(12月から2月までの天候見通し)

平成23年11月24日

大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。近畿日本海側の降雪量は、平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

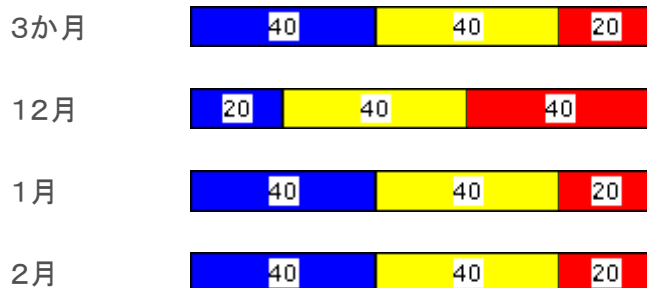
2月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%、近畿太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

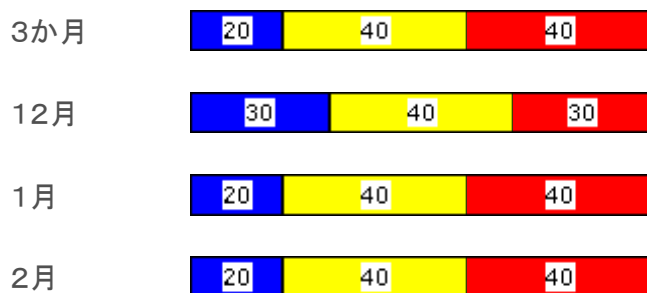
【気 温】

[近畿地方]

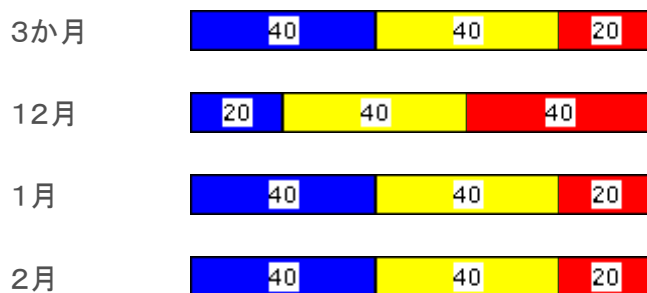


【降 水 量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



【降 雪 量】

[近畿日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

発生概況及び防除対策上の留意点

冬(春) キャベツ

1 菌核病

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の巡回調査において、発病ほ場率25%、発病株率0.5%と平年発生ほ場率10.3%、発病株率2.7%と比較して平年並であった。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、長期的には発生を抑制しないと考えられる。

2 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の巡回調査においてはモモアカアブラムシのみの発生を認めており、発生株率0.5%と平年の発生ほ場率8.3%、同株率0.9%と比較してやや少ない発生であった。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、気象条件から現状の発生状態が続くと考えられる。

タマネギ

1 ベと病

(1) 予報の内容 発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の苗床の巡回調査では発生を認めなかった。

イ 淡路農業技術センターへの持込診断により、既にべと病が確認されている。

ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており長期的には発生を抑制しないと考えられる。

2 白色疫病

(1) 予報の内容 発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の苗床の巡回調査では発生を認めなかった。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、特に発生を助長しないと考えられる。

3 細菌性腐敗

(1) 予報の内容 発生量： やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月中旬の苗床の巡回調査で、発病ほ場率50%、発病株率0.4%と、この時期としては多い発生である。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、菌密度は維持されると予想される。

冬(春) レタス

1 菌核病

(1) 予報の内容 発生量： やや多

(2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、発病ほ場率25%、発病株率0.4%と平年発病ほ場率10.6%、発病株率0.5%と比較してやや多い発生であった。
- イ 今後、レタスほ場ではトンネル被覆により、本病の発生が助長される恐れがある。
- ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、長期的には発生を抑制しないと考えられる。

2 灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、発病を認めなかった。
- イ 今後、レタスほ場ではトンネル被覆により、本病の発生が助長される恐れがある。
- ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、長期的には発生を抑制しないと考えられる。

3 ビッグベイン病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、発生ほ場率20%、発病株率8.3%とやや多い発生であった。
- イ 例年、厳寒期に発生が目立つが、本年は、病徴の発現が早い傾向にある。
- ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、本病の発生を助長すると考えられる。

4 腐敗病

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、発生ほ場率37.5%であり、発生時期もやや早く、やや多い発生であった。
- イ 今後、レタスほ場ではトンネル被覆により、日中の温度格差が大きくなり、本病の発生が助長される恐れがある。
- ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、本病の発生を助長すると考えられる。

4 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、モモアカアブラムシのみの発生を認めており、寄生株率0.5%と平年並の発生であったが、他種のアブラムシ類を含めるとやや少ない発生であった。
- イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、現状の発生状態が続くと考えられる。

5 ハモグリバエ類

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
- (2) 予報の根拠

- ア 11月中旬の巡回調査において、発生ほ場率50%、被害株率3%と平年発生ほ場率4.2%、同被害率0.3%と比較してやや多い発生であった。
- イ 今後、レタスほ場ではトンネル被覆により、発生は増加すると考えられる。
- ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低いものの、降水量は太平洋側で平年並またはやや少なく、太平洋側では好適な日照時間が確保されることが予想されておりと予想されており、トンネル内での発生が助長されると考えられる。

イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査において、発病ほ場率25%、発病株率1%と平年発病ほ場率5.2%、同発病株率0.4%と比較してやや多い発生であった。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、発生は抑制されないと考えられる。

(3) 防除上の留意事項

ア 本病菌の生活環（分生子→次世代分生子の形成まで）は最短で5日間である。

イ 薬剤散布時には、展着剤を加用し、丁寧な散布を心がける。果梗部分は特に付着しにくいので、果梗部分の発病には特に注意する。

ウ 本病原菌の分生子飛散は晴天時の日中が中心であることから、薬剤散布は日中の早い時間に行うことが望ましい。

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査において、発病ほ場率50%、発病株率1%と平年発病ほ場率12.1%、同発病株率0.6%と比較してやや多い発生であった。

イ 今後、気温の低下に伴い、ハウス内の気温の昼夜較差が大きくなり、ハウス内の結露が増大し、本病の発生が助長される恐れがある。

ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低く、降水量は太平洋側で平年並またはやや少ないと予想されており、長期的には発生を抑制しないと考えられる。

(3) 防除上の留意事項

ア 本病は多湿条件によって発病しやすくなるので、日中の換気に努めるため、循環扇等でハウス内の空気を攪拌し、極力結露しないように留意する。

イ 薬剤散布は日中の早い時間に行い、薬液が乾くよう留意する。

3 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査において、発生ほ場率100%、寄生葉率6.7%とやや多い発生であった。

イ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低いものの、太平洋側では好適な日照時間が確保されることが予想されており、現状の発生状態が続くと考えられる。

4 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬の巡回調査においては、発生を認めなかった。

イ ハウス内はハダニ類の発生・増殖に好適な環境である。

ウ 3か月予報によると向こう3か月の気温は平年並またはやや低いものの、太平洋側では好適な日照時間が確保されることが予想されており、現状の発生状態が続くと考えられる。